

科目名	Photoshop / Illustrator I A									
科目名(英)	Photoshop / Illustrator I A									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	高山 裕明	
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目	デザイン会社にて 商品開発デザイン担当	
	ものづくり科 1年									
授業概要	設計開発デザインのスペシャリストとして活躍する専門性として、自分の考えを伝え、表現できること(プレゼンテーション能力)が挙げられる。プレゼンを行う際、読みやすく見やすい資料をデザインする必要がある、Photoshop / Illustrator はその重要なツールソフトである。前期は特に Illustrator の基本操作を学ぶとともに、伝わるデザインの理論を学び、プレゼンテーション資料作成技術の習得を目指す。									
授業形式	講義: △			演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				Photoshopと Illustratorの個々の特徴について学び、作業の目的に応じた選択ができる。				
		○	○			プレゼンテーション資料作成に必要な Illustratorの基本操作を学び、資料作成ができる。				
		○	○			クリエイター能力認定試験(スタンダード)に必要な機能を学び、適切に解答できる処理能力を身につける。				
テキスト・教材 参考図書	参考図書 『世界一わかりやすいIllustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書』 『伝わるデザインの基本』 ほか									
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示		
	1	Adobeインストール								
	2	Illustrator 基本操作 導入 Photoshopとの違い						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	3	Illustrator 基本操作 図形や線を描く						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	4	Illustrator 基本操作 オブジェクトの選択と基本的な変形						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	5	Illustrator 基本操作 オブジェクトの選択と基本的な変形						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	6	Illustrator 基本操作 色と透明度の設定						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	7	Illustrator 基本操作 色と透明度の設定						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	確認テスト／プレゼン資料作成の技術						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	9	Illustrator 基本操作 オブジェクトの編集と合成、配置						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	10	Illustrator 基本操作 オブジェクトの編集と合成、配置						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	11	Illustrator 基本操作 線と文字の設定						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	12	Illustrator 基本操作 線と文字の設定						授業で習った内容は、復習し習得すること		
	13	Illustrator 基本操作 覚えておきたい機能						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	14	確認テスト／検定説明と模擬問題案内						授業で習った内容は、復習し習得すること		
15	検定模擬問題解説						授業で習った内容は、復習し習得すること			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(技能テスト)を2回実施する。(2)各章終了時に課題提出を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	小テスト		○	◎			80%			
	課題提出		◎		○		20%			
履修上の注意	授業中の指示を聞き落とさないこと。課題は指示された作業の正確さと、期限内提出を評価する。									

科目名	CAD						
科目名(英)	CAD						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	日 巻 明 美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ものづくり科 1年						
授業概要	CAD利用技術者試験2級対策の問題演習を通して、建築業界で必要とされる2次元・3次元CADの操作技術の習熟を目指す						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度・ 意欲	その他		
					目標		
		○			CAD利用技術者試験の2級合格に必要なCADシステムや製図の知識を習得する		
	○	○			AutoCADの機能や設定方法・コマンドの操作方法を習得して課題を制作する		
		○	○		CADを利用して建築図面（平面図・立面図・断面図）を期限内で作図することができる		
テキスト・教材 参考図書	CAD利用技術者試験2次元2級公式ガイドブック CAD操作テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	導入 CAD利用技術者（試験概要 試験問題確認）			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	CADとは CADデータの特徴 AutoCAD画面構成 基本操作			AutoCADの環境を整えておくこと		
	3	AutoCAD（座標 直接距離入力 絶対座標入力 相対座標入力 極座標入力 演習）			授業で学習した座標コマンドの復習を行う（練習問題）		
	4	CAD利用技術者（CADシステムの概要と機能 CADソフトの種類・特徴 CAD用語）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	5	AutoCAD（作図コマンド 直線 円 円弧 長方形 ポリゴン オブジェクトスナップ）			授業で学習した作図コマンドの復習を行う（練習問題）		
	6	AutoCAD（図面範囲・ページ設定 演習）			授業で学習した設定コマンドの復習を行う（練習問題1）		
	7	CAD利用技術者（CADシステムの概要と機能 CADソフトの種類・特徴 CAD用語）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	8	AutoCAD（修正コマンド 移動 コピー オフセット 回転 鏡像）			授業で学習した修正コマンドの復習を行う（練習問題）		
	9	AutoCAD（修正コマンド トリム 延長 フィレット 面取り 演習）			授業で学習した修正コマンドの復習を行う（練習問題）		
	10	CAD利用技術者（製図一般 図面の基本要件 様式 文字 線種 尺度 寸法記入）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	11	CAD利用技術者（CADシステムの概要と機能 CADソフトの種類・特徴 CAD用語）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	12	AutoCAD（レイヤ作成 投影図の作図）			授業で学習した修正コマンドの復習を行う（練習問題）		
	13	CAD利用技術者（製図における図形の表現方法 投影図 断面図 省略図示法 特殊な図示法）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	14	CAD利用技術者（展開図 三平方の原理 問題演習）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） 次回の学習内容を一読しておく		
	15	AutoCAD文字記入 文字タイトル管理 寸法記入 寸法スタイル管理 尺度変更）			授業で学習した修正コマンドの復習を行う（練習問題）		
	16	CAD利用技術者（CAD操作確認演習） 復習			今まで学習したCADの操作方法と名称を理解しておく		
	17	中間試験①			間違えた問題のやり直し		
	18	AutoCAD（各種 コマンド演習）			授業で学習したコマンド操作の復習を行う（練習問題）		
	19	CAD利用技術者（コンピュータの基本構成 主記憶装置 RAM ROM等）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	20	CAD利用技術者（インターフェース ドライバ CADシステムの特長装置等）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	21	AutoCAD（構築線 点 ディバイダ スプライン ハッチング）			授業で学習した修正コマンドの復習を行う（練習問題）		
	22	CAD利用技術者（ネットワークの知識 クライアント/サーバシステム等）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	23	CAD利用技術者（アプリケーションプロトコル ファイアウォール アクセス権管理）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	24	AutoCAD（配列複写 ストレッチ ポリライン 結合 部分削除 演習）			授業で学習したコマンド操作の復習を行う（練習問題）		
	25	CAD利用技術者（コンピュータウイルス対策 パスワード管理 バックアップ等）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	26	CAD利用技術者（知的財産権 著作権 セキュリティ・著作権に関するQ&A）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	27	AutoCAD（距離計測 トラッキング オブジェクトプロパティ管理）			授業で学習したコマンド操作の復習を行う（練習問題）		
	28	CAD利用技術者（VDT作業者管理 CADシステムの標準化データの管理 障害管理）			授業で説明した内容とサンプル問題授業箇所の復習		
	29	CAD利用技術者（3次元CADのメリット モデリング機能 ソリッド作成機能等）			授業で説明した内容を復習（赤書き部分は必須） サンプル問題を見直して次回に備える		
	30	AutoCAD（作図演習）			授業で上手く出来なかった部分の操作練習を行う		
	31	H30後期過去問題 回答 解説			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	32	H30前期過去問題 回答 解説			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	33	H29後期過去問題 回答 解説			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	34	H29前期過去問題 回答 解説			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	35	H28後期過去問題 回答 解説			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	36	H28前期過去問題 回答 解説（中間試験②）			間違えた問題のやり直し（やり直し分提出）		
	37	建築図面学習・作成①（線種設定・寸法スタイル設定等の各種設定）			建築図面の概要・設定方法を復習しておく 作図が完成していない場合は完成させておく		
	38	建築図面学習・作成②（敷地境界線 通り線 柱及び壁の作成）			平面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	39	建築図面学習・作成③（柱及び壁の作成 開口の作成 階段の作成）			平面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	40	建築図面学習・作成④（設備の配置 平面図仕上げ）			平面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	41	建築図面学習・作成⑤（平面図を参考に立面図の作成）			立面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	42	建築図面学習・作成⑥（立面図仕上げ）			立面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	43	建築図面学習・作成⑦（平面図を参考に断面図の作成）			断面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	44	建築図面学習・作成⑧（断面図仕上げ）			断面図の作図方法を復習しておく 授業内で完成していない場合は完成させておく		
	45	建築図面学習・作成⑨（建築CAD総復習）			作図した図面をきちんと確認しておく 授業終了時に提出するため間に合うように進めてお		
評価方法	(1)授業の中で中間テストを2回以上実施する。(2)CAD利用技術者試験2級検定の可否 (3)課題の提出状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			70%
	中間テスト	○	○	○			20%
	検定試験	○	○	○			10%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナー A										
科目名(英)	Business manner										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		日巻 明美		
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	全学科対象・1学年										
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
			○			立居振る舞いを身に付ける					
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。					
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。					
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する					
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。					
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	社会人としての心構え― 社会と組織・仕事と成果					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	基本動作 立居振る舞い ― 第一印象について 基本動作練習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	言葉遣いの基本① ― 話の仕方・話の聞き方 敬語の基本					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	言葉遣いの基本② ― 間違いやすい敬語の解説					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	言葉遣いの基本③ ― よく使われる接遇用語・クッション言葉					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	サービス接遇検定対策 ― 必要とされる用件					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	サービス接遇検定対策 ― 従業員用・専門知識・専門用語					専門用語確認テストを実施するので、復習をしておく				
	8	サービス接遇検定対策 ― 専門用語確認テスト・一般知識					一般知識確認テストを実施するので、復習をしておく				
	9	サービス接遇検定対策 ― 一般知識確認テスト 用語について復習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	交際業務1 ― ビジネス文書の種類・社外文書のスタイルについて					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	交際業務2 ― 社内文書のスタイルについて 文書作成に必要な用語					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	交際業務3 ― 封筒の書き方 縦書き・横書き 返信はがきの書き方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	交際業務4 ― 郵便の知識について(適切な郵送方法が選択できる)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	交際業務5 ― 冠婚葬祭について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める					定期試験に備えて、復習をしておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	○		○							75%
	小テスト	○		○							15%
	態度・意欲・出席							○		○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	CATIA I A										
科目名(英)	CATIA I A										
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	木下 敦子				
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	ものづくり科1年										
授業概要	CATIA でのモデル作成や図面作成における基本的な操作方法について学ぶ。CATIA認定資格の範囲のうち、基本操作・スケッチ・ソリッドのワークベンチを修得する。										
授業形式	講義：	△	演習：	○	実習：		実技：		※ 主たる方法：○	その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他				目標		
		○	○			CATIAの基本操作を問題なく行える					
		○	○			CATIAでの各ツールを用いてスケッチ作成を行える					
		○	○			CATIAでの各ツールを用いてソリッド形状作成を行える					
テキスト・教材 参考図書	(株)トヨタシステムズ CATIAテキスト (株)トヨタシステムズ CATIA基本教育用データ										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	基本操作編 ワークベンチの概念、ツールバー、仕様ツリー					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	2	基本操作編 マウス機能、コンパス、エレメント					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	3	基本操作編 レンダリングスタイル、座標系					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	4	スケッチ編 スケッチ形状の作成					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	5	スケッチ編 拘束の定義、拘束の修正					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	6	スケッチ編 プロファイルツール					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	7	スケッチ編 操作ツール					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	8	スケッチ編 拘束ツール					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	9	スケッチ編 3Dエレメント					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	10	スケッチ編 アニメーション表示					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	11	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	12	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	13	前期中間試験(スケッチ編)					前期配付したスケッチ編のプリントを見直す				
	14	ソリッド編 パーツボディの概念、パッド、ポケット、境界設定					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	15	ソリッド編 フィーチャーの編集、形状の基本的な作り方					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	16	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	17	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	18	ソリッド編 シャフト、溝、穴					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	19	ソリッド編 ドラフト角度、フィレット、面取り、シェル					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	20	ソリッド編 フィーチャーの挿入、リオーダ、非活性化					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	21	ソリッド編 リブ、スロット					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	22	ソリッド編 サーフェス・ベースフィーチャーツール					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	23	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	24	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	25	ソリッド編 変換フィーチャーツール					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	26	ソリッド編 ブール演算					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	27	ソリッド編 非パラ					予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する				
	28	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	29	演習問題					3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去問題にチャレンジする				
	30	前期期末テスト(ソリッド編)					前期配付したソリッド編のプリントを見直す				
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(10回程度) (2)演習課題を実施する。 (3)定期試験(実技)を中間、期末で各1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(中間、期末)	○	○				60%				
	確認テスト	○					20%				
	演習課題		○				20%				
履修上の注意											

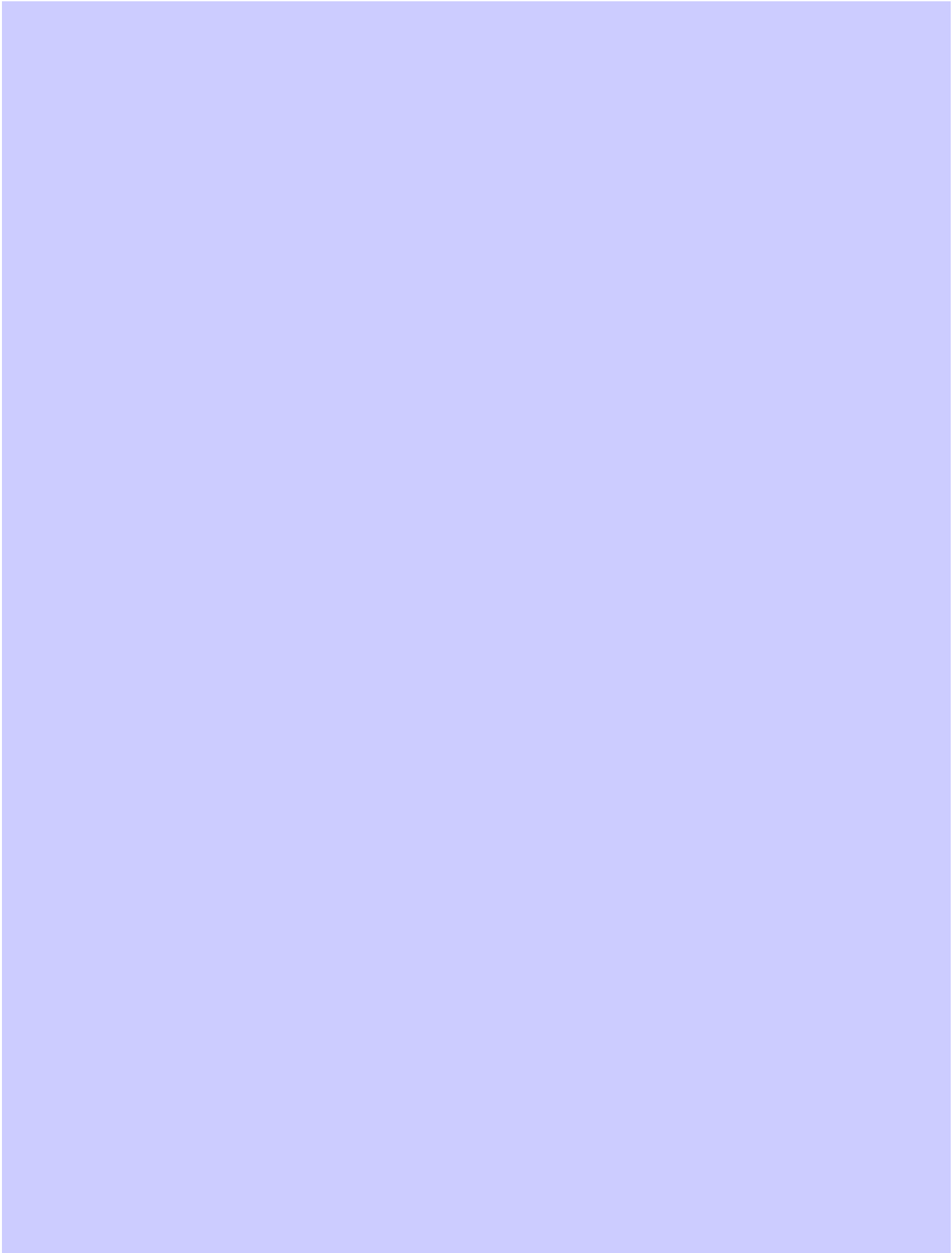
科目名	CATIA I B								
科目名(英)	CATIA I B								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	木下 敦子		
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ものづくり科1年								
授業概要	CATIA でのモデル作成や図面作成における基本的な操作方法について学ぶ。CATIA認定資格の範囲のうち、ジェネレーティブシェイプデザイン(GSD)・アセンブリのワークベンチを修得する。								
授業形式	講義：	△	演習：	○	実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標			
	△					初級レベルの専門用語を理解する			
	○					サーフェスツール及びアセンブリ技術習得			
テキスト・教材 参考図書	(株)トヨタシステムズ CATIAテキスト (株)トヨタシステムズ CATIA基本教育用データ								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	GSDワークベンチ 形状セットの概念、ワイヤーフレームツール(点、直線、平面)				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	2	ワイヤーフレームツール(円、スプライン)演習問題							
	3	サーフェスツール(押し出し)、パラメトリック				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	4	サーフェスツール(押し出し)、パラメトリック演習問題							
	5	サーフェスツール(回転、オフセット)、フィーチャーの編集、 操作ツール(フィレット)				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	6	サーフェスツール(回転、オフセット)、フィーチャーの編集、 操作ツール(フィレット)演習問題							
	7	操作ツール(外挿、接合、抽出)、フィーチャーの挿入・削除				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	8	操作ツール(外挿、接合、抽出)、フィーチャーの挿入・削除 演習問題							
	9	ワイヤーフレームツール(コーナー、結合曲線、投影、 合成、交差、平行曲線)				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	10	ワイヤーフレームツール(コーナー、結合曲線、投影、 合成、交差、平行曲線)演習問題							
	11	サーフェスツール(スイープ)				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	12	サーフェスツール(スイープ)演習問題							
	13	サーフェスツール(複数セグジョンサーフェス、フレント) 操作ツール(分割トリム変換方向を反転、近傍)				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	14	サーフェスツール(複数セグジョンサーフェス、フレント) 操作ツール(分割トリム変換方向を反転、近傍)演習問題							
	15	ソリッド編 フィーチャーの編集、形状の基本的な作り方				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	16	解析ツール、非パラフィーチャーの作成、演習問題							
	17	中間試験(GSD)				前期配付したGSD編のプリントを見直す			
	18	アセンブリワークベンチ 作成の流れ、プロダクトファイルの作成、構成要素の挿入				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	19	構成要素の挿入、保存時の注意、配置関係を修復する方法 更新モード設定、拘束、移動				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	20	アセンブリ演習問題(構成要素の挿入、配置、拘束、移動)							
	21	パワーコピー、パブリケーション				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	22	パワーコピー、パブリケーション				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	23	アセンブリ演習問題(パワーコピー、パブリケーション)							
	24	構成要素の置き換え、構成要素間の関連付け				3次元CAD利用技術者試験 準1級テキストの過去 問題にチャレンジする 演習問題を実施解説をする。			
	25	アセンブリ演習問題(構成要素の置き換え、関連付け)							
	26	中間試験(アセンブリ)				前期配付したアセンブリ編のプリントを見直す			
	27	演習問題				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	28	演習問題				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
	29	演習問題				予習のプリントを配付する 復習(確認テスト)を実施し、採点して返却する 演習問題を実施解説をする。			
30	前期期末テスト(GSD・アセンブリ編)				前期配付したGSD編・アセンブリ編のプリントを見 直す				
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(10回程度) (2)演習課題を実施する。 (3)定期試験(実技)を中間、期末で各1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(中間、期末)	○	○				60%		
	確認テスト	○					20%		
	演習課題		○				20%		
履修上の注意									

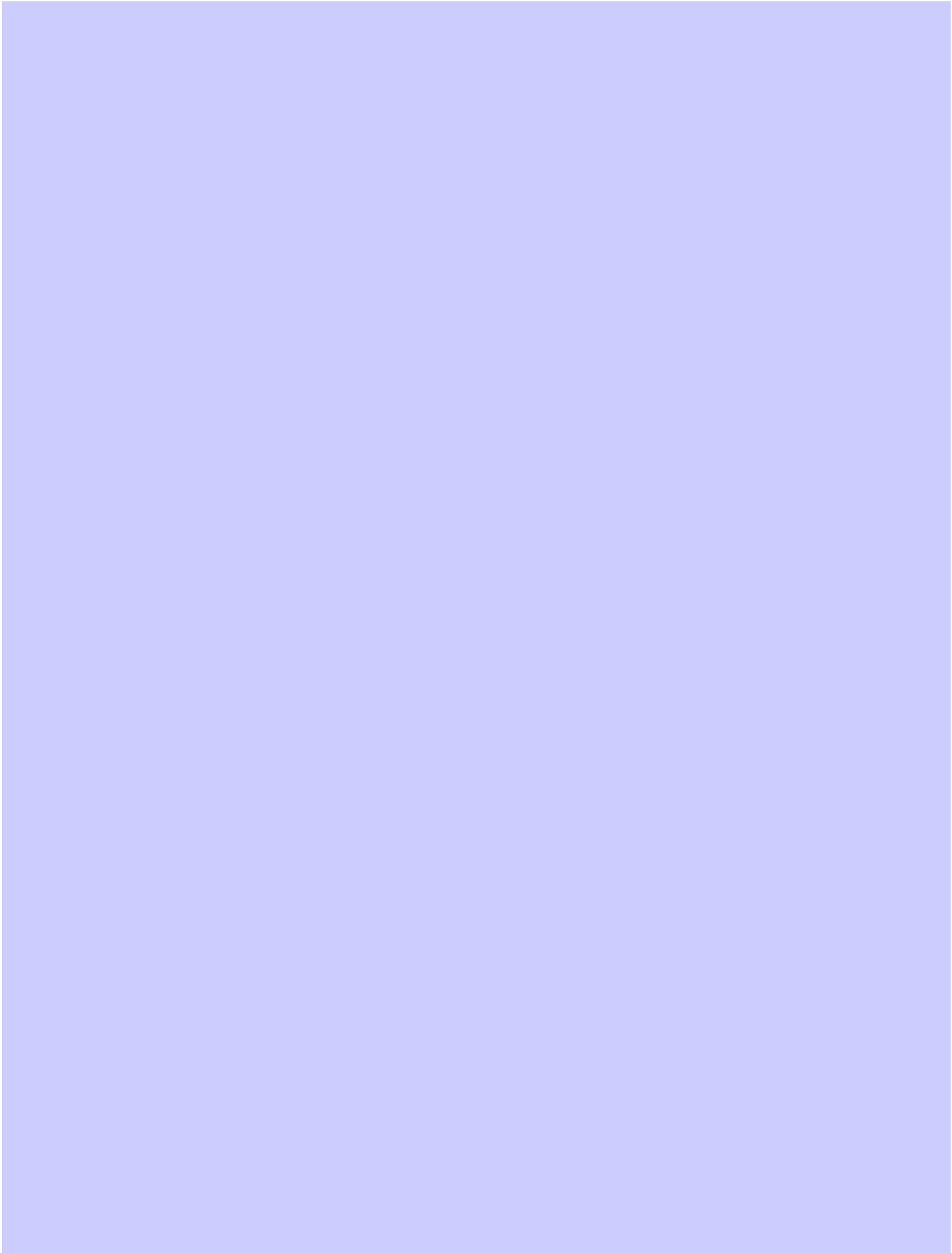
科目名	3次元CAD検定対策 A											
科目名(英)	3dimensional CAD official certification Countermeasure A											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		木下 敦子			
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	ものづくり科 1年											
授業概要	3次元CAD利用技術者検定試験2級レベルの内容理解と検定取得を目標とする。 なお、設計業務を行う上での基礎知識の習得を目指す。											
授業形式	講義: △		演習: ○		実習: -		実技: -		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				2Dと3Dの相違点について説明することができる						
	○	○				知識問題範囲の用語・意図に関して説明することができる						
	○	○				過去問題の正答を導き出すことができる						
		○	○			3次元CADの操作を問題なく行える						
					○	3次元CAD利用技術者検定試験2級に合格できる						
テキスト・教材 参考図書	3次元CAD公式ガイドブック 日経BP社 授業単元ごと適宜プリントを配布											
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示						
	1	3DCAD検定対策概要・CADの歴史・3Dと2Dの違い				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	2	3DCAD概要・データー構成・種類・モデルとは				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	3	プロジェクト管理・各部品の役割・ネットワークについて				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	4	コンピュータシステム・CAD/CAM/CAEについて				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	5	コンピュータシステム概要・CAM/CATについて				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	6	3次元モデルの作成手法・コマンド解説				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	7	レンダリング機能解説				授業範囲のテキスト内容を熟読しておくこと 新しい用語についてはノートに控えること						
	8	テキスト内 前年度 前期テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	9	テキスト内 前年度 後期テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	10	他年度過去問題 テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	11	他年度過去問題 テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	12	他年度過去問題 テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	13	他年度過去問題 テスト実施・解説				誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける						
	14	前期評価対象試験実施				試験内容を振り返り復習すること。						
15	他年度過去問題 テスト実施・解説				本科目における学習内容を復習しておくこと							
評価方法	(1)期末試験評価 (2)中間試験評価 (3)演習問題評価											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	期末試験評価	◎		○								60%
	中間試験評価	◎		○								20%
	演習問題試験評価	◎		○								20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価対象試験受験の資格を与えない。											

科目名	就職実務 I A										
科目名(英)											
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	稲吉 貴博			
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	ものづくり科 1年										
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる					
	○			○		基本的な面接対応ができる					
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある					
	○	○				企業研究の方法を知っている					
		○				学校求人を利用するための条件を知っている					
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る					授業内容について振り返り自分が働くことについて考えること。				
	2	就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	3	就職活動における心構え / 業界で必要なサービスとは					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	4	就職活動における心構え / 業界で必要なスキルとは					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	5	就職活動における心構え / 作品集の価値とは					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	6	就職活動における心構え / 作品集をイメージする1					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	7	就職活動における心構え / 作品集をイメージする2					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	8	就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す					授業内容について振り返りを行い今後に備える。				
	9	履歴書 / 自己分析 自己PR					自己PRについて考え、何をPRするか複数考え準備すること。				
	10	履歴書 / 自己分析 得意分野 特記事項					得意分野や趣味などPRすることを改めて考えておくこと。				
	11	履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる					自己分析及び履歴書の重要性を認識今後に備えること。				
	12	面接練習 / 面接の重要性 意味を知る					面接の重要性や意味を理解し今後に備えること。				
	13	面接練習 / 入退室の練習					面接の入退室のポイントを振り返り練習すること。				
	14	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング					面接で話す内容を理解認識し準備すること。				
	15	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング					面接で話す内容を理解認識し準備すること。				
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	出席状況				◎		60%				
	受講態度・意欲	○	○				30%				
	課題の提出	○	○				10%				
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする										

科目名	造形A				
科目名(英)	Architectural modeling I				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元木 昭平
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	ものづくり科 1年				
授業概要	建築模型製作の基礎を学ぶ。 【手で作る 模型演習】 模型づくりを通して建築をつくり出すことの楽しさを実感させるとともに、重要な前提知識と基礎技術の中から、これだけは確実に覚えてほしいことに絞り込んでトレーニングを行う。				
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他
		○	○		
		○	○		
			○	○	
		○		○	
基本的な住宅模型(切妻屋根の住宅)を完成させることができる					
建築図面に忠実な住宅模型を制作することができる					
スケジュール通りに制作を進め、完成させることができる					
制作した住宅模型についてプレゼンテーションすることができる					
テキスト・教材 参考図書	模型づくりからはじめる建築製図の基礎				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	道具と材料、スチレンボードの加工、立方体をつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	2	道具と材料、スチレンボードの加工、立方体をつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	3	家のカタチをつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	4	家のカタチをつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	5	立体曲面をつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	6	立体曲面をつくる			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	7	切妻屋根の住宅模型			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	8	切妻屋根の住宅模型			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	9	建築図面の読み方			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	10	建築図面の読み方			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	11	L字形平面の住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	12	L字形平面の住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	13	L字形平面の住宅模型② プレゼンテーション			作品制作が遅れた場合、宿題とする。
	14	L字形平面の住宅模型② プレゼンテーション			作品制作が遅れた場合、宿題とする。
	15	コートのある住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	16	コートのある住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	17	コートのある住宅模型② プレゼンテーション			作品制作が遅れた場合、宿題とする。
	18	コートのある住宅模型② プレゼンテーション			作品制作が遅れた場合、宿題とする。
	19	丸屋根のある住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	20	丸屋根のある住宅模型①			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	21	丸屋根のある住宅模型②			授業で習ったスキルは、確実に習得すること。

	22	丸屋根のある住宅模型②	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	23	丸屋根のある住宅模型③ プレゼンテーション	作品制作が遅れた場合、宿題とする。				
	24	丸屋根のある住宅模型③ プレゼンテーション	作品制作が遅れた場合、宿題とする。				
	25	テラスとピロティのある住宅模型①	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	26	テラスとピロティのある住宅模型①	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	27	テラスとピロティのある住宅模型②	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	28	テラスとピロティのある住宅模型②	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	29	テラスとピロティのある住宅模型③ プレゼンテーション	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。				
	30	テラスとピロティのある住宅模型③ プレゼンテーション	課外時間を使い、作品が完了するようにすること。				
評価方法	(1)授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。 (2)プレゼンテーションスキル (3)スケジュール管理 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品評価		○	○			60%
	プレゼンテーションスキル		○		○		20%
	スケジュール管理				○		20%
履修上の注意							





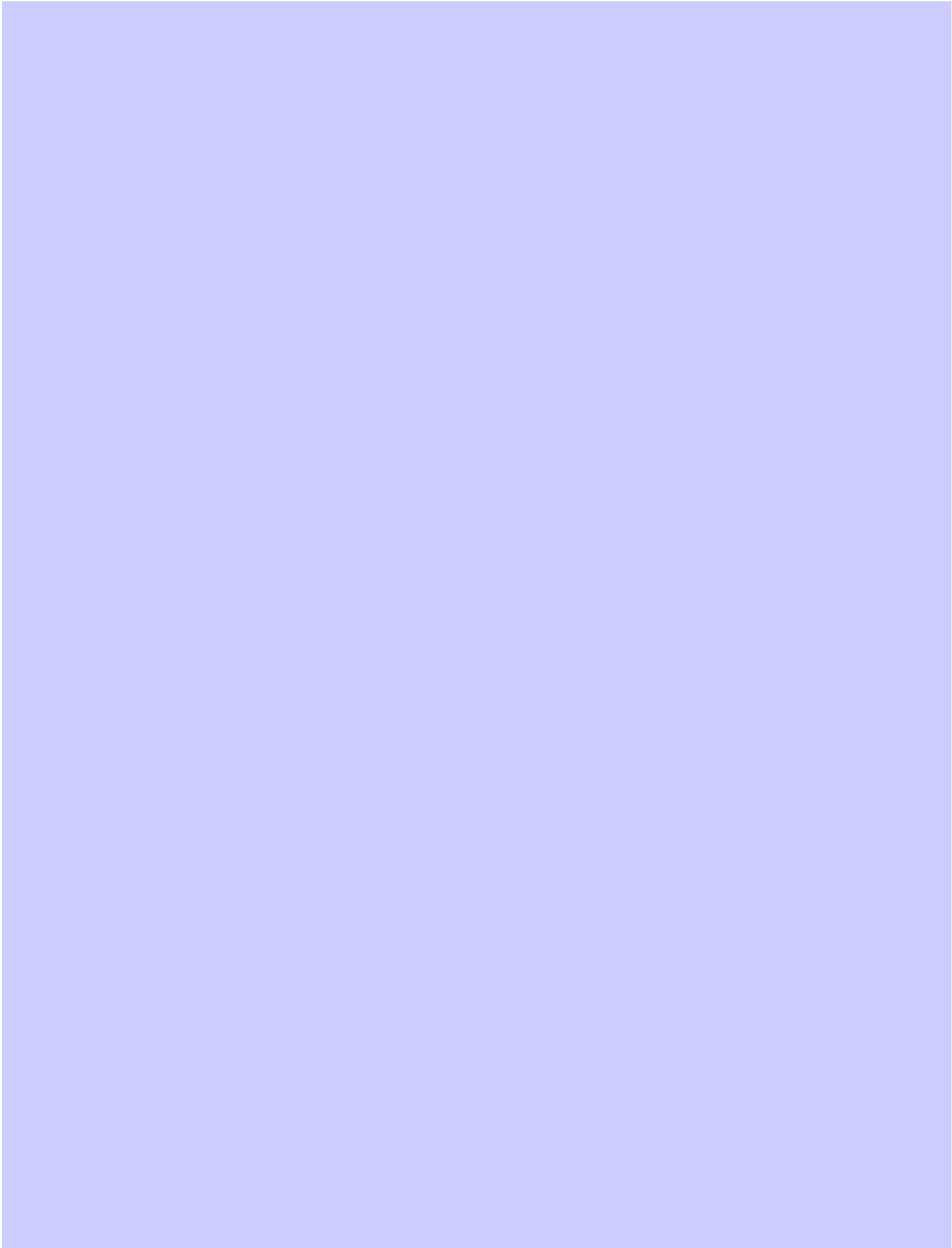


- 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。
 - 任意で記入してください。
 - 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。
 - 実施される年度、時期(前期・後期・通年)を記入してください。実務家教員の担当科目には「○」を記入してください。
 - 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。
 - 授業科目の概要を記入してください。(カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など)
-
- 該当する授業形式に○を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に○、その他に△を記入してください。(職業実践専門課程の場合)
 - 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、○を記入してください。
-
- 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし」を記入してください。
 - 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
同様のテーマを複数にわたり扱う場合は、「○○○○①」「○○○○②」のように記載するのではなく、
例えば、「○○○○① △△△、×××」「○○○○② □□□、◇◇◇」のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記入してください。
授業の性格上、回ごとに分けることが困難な場合でも、授業内容の大まかな順序が分かるよう、可能な範囲で具体的に記入してください。
複数教員で分担して担当する場合は、該当回の担当教員名を括弧書きで記入してください。

→ 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標(到達目標)で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または○を記入してください。

→ 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。









様式4(3)と一致させる)

」と記入してください。

科目名	図学											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		石原 達也		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	ものづくり科1年											
授業概要	建築におけるパースの役割を理解し、図法を学習し表現する。											
授業形式	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				建築におけるパースの役割と種類について説明することができる						
		○	○			2消点法により正確な有角透視図を描くことができる						
		○	○			基本となる住宅(切妻屋根)のパースを完成させることができる						
		○	○			2階建て住宅のパースを完成させることができる						
		○		○		作品のプレゼンテーションを問題なく行える						
テキスト・教材 参考図書	建築の新透視図法 学芸出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	パースの役割と種類、遠近法について					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	2	有角透視図(2消点法)基本Ⅰ・Ⅱ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	3	有角透視図(2消点法)基本Ⅲ・Ⅳ					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	4	屋根の作り方(陸屋根)					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	5	屋根の作り方(数奇屋根)					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	6	切妻屋根Ⅰ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	7	切妻屋根Ⅱ					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	8	2階建て住宅Ⅰ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	9	2階建て住宅Ⅱ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	10	2階建て住宅Ⅲ					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	11	外構Ⅰ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	12	外構Ⅱ					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	13	着色Ⅰ					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。					
	14	着色Ⅱ					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
	15	表現方法(点添)人物・車・植栽・明暗・陰影・鏡映					作品制作が遅れた場合、宿題とする。					
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	課題提出			○			○				30%	
	課題作品			○	○						60%	
	提出状況			○			○				10%	
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。											

科目名	プロダクトデザイン実習ⅠA						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	元木昭平
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	ものづくり科 1年						
授業概要	博多駅周辺リサーチ、リサーチしたモノに関するマップ作成、市場調査(アンケート、グループインタビュー)を通じて改善点を掘り起こしたうえでコンセプト立案、最終的な提案と発表を行う。						
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					プロダクトデザインの基本的概念を説明することができる	
	○	○				リサーチに基づいたしっかりとしたコンセプトを立案することができる	
	○	○	○			リサーチしたデータをもとに商品企画(テーマ・コンセプト・ネーミング等)をまとめることができる	
		○		○		商品企画案を問題なくプレゼンテーションすることができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書『プロダクトデザイン』						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習Ⅰ【製品】 キャンプ用品／キッチン用品／雑貨 導入				調査結果は、整理して資料化すること。	
	2	リサーチ					
	3	収集データを分類、マップ作り				作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	4	収集データを分類、マップ作り					
	5	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	6	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作					
	7	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	8	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作					
	9	商品企画(テーマ、コンセプト、ネーミング等) サムネール作成				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	10	商品企画(テーマ、コンセプト、ネーミング等) サムネール作成					
	11	企画案の確認、修正				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	12	企画案の確認、修正					
	13	指定フォーマットへのまとめ				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	14	指定フォーマットへのまとめ					
	15	指定フォーマットへのまとめ				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	16	実習Ⅱ【公共物】 屋内(駅、病院、学校、役所、他) 屋外(公園、道路、山、海、川、他) 導入					
	17	リサーチ				調査結果は、整理して資料化すること。	
	18	収集データを分類、マップ作り					
	19	収集データを分類、マップ作り				作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	20	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作					
	21	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	22	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作					
	23	マップ制作、写真資料、サムネール、スケッチ制作				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	24	商品企画(テーマ、コンセプト、ネーミング等) サムネール作成					
	25	商品企画(テーマ、コンセプト、ネーミング等) サムネール作成				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	26	企画案の確認、修正					
	27	企画案の確認、修正				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。 作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	28	企画案の確認、修正					
	29	発表 (5分／人) ※power pointを用いてプロジェクターでプレゼン				発表資料が遅れた場合、減点とする。	
	30	発表 (5分／人) ※power pointを用いてプロジェクターでプレゼン					
評価方法	(1)課題作品 (2)課題提出状況／授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (3)プレゼンテーション						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○	○			60%
	課題提出状況		○	○	○		20%
	プレゼンテーション		○	○	○		20%
履修上の注意	各プロセスをしっかりと理解すること。						

科目名	色彩学A						
科目名(英)	Color						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	藤末 淑美
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	ものづくり科 1年						
授業概要	ものづくりにおいて「色」の知識は必要不可欠です。この講座では、カラーデザイン検定3級合格を目指すとともに、色に関する知識と技能を、理論的、系統的に学んでいきます。 色彩学の基本的な知識と、色を扱うテクニックを身につけ、プロダクトデザインにおいて、カラーコーディネートを実践できることを目標としています。また、色の見え方の多様性とカラーユニバーサルデザインについて学びます。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	-	実技: - ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				マンセル表色系の概要について説明できる。	
	○	○				マンセル色相環の成り立ちと色の三属性について説明できる	
	○	○				光の性質から、なぜ色が見えるのかを説明することができる。	
		○				混色についての知識をもとに、目的の色を作ることができる。	
		○				色の感情効果をもとに、色彩計画を立てることができる。	
テキスト・教材 参考図書	カラーデザイン検定公式ガイド【感性編】、配布資料、画材 日本の色世界の色、日本の伝統色、色で巡る日本と世界、カラーイメージスケール						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	カラーコーディネートについて(導入)、色相環と補色残像				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	マンセル色相環、三属性について				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	マンセル表色系、光の性質				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	4	嗜好色と嫌悪色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	5	色の心理効果				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	6	住空間と色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	7	配色演習				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	食べ物と色・色空間と色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	9	色の共感覚				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	10	配色演習				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	ファッションと肌色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	12	色と記憶、注目度の高い色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	色の名前、カラーユニバーサルデザイン				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと	
	14	過去問演習、解答と解説				検定範囲全体の復習をしておくこと	
	15	総まとめテスト				検定範囲全体の復習をしておくこと	
評価方法	(1)講座最終日に総まとめテストを実施する (2)確認の小テスト (3)課題の提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	総まとめテスト	◎	○				70%
	小テスト(理解度確認テスト)	◎	○				10%
	提出課題		○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各担任
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	全学科対象・1学年						
授業概要	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB Iでは、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る	
	○	○		○		「感謝心」が人間力の根底にあることを知る	
	○	○		○		人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう グローバルシティズンとは				テキストを熟読しておく	
	2	「協働」の態度を持った学生生活 「働く」ことの幸せとは				テキストを熟読しておく	
	3	より良い人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストを熟読しておく	
	4	マナーの本質 I 思いやり・気配りのカタチ				テキストを熟読しておく	
	5	マナーの本質 II 相手に敬意を表する・思いを伝える“あいさつ”				テキストを熟読しておく	
	6	グローバル・シティズンとしての日常				テキストを熟読しておく	
	7	グローバル・シティズンとしての目標				テキストを熟読しておく	
	8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて				テキストを熟読しておく	
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	数学ゼミA						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	吉田麻美
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				正の数と負の数が含まれた基本的な数式問題が解ける	
	○	○				1次方程式の基本問題が解ける	
	○	○				比例と反比例の基本問題が解ける	
	○	○				図形に関する基本問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 正の数と負の数、いろいろな計算(四則計算)				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式					
	3	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式 1次方程式の利用					
	4	【演習問題】 比例と反比例					
	5	【演習問題】 比例と反比例 比例と反比例の利用					
	6	【演習問題】 平面図形					
	7	【演習問題】 空間図形					
	8	【演習問題】 総合演習 まとめ					
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						